

やすらぎ

Jan.2026
vol.04

1月号



—特集—

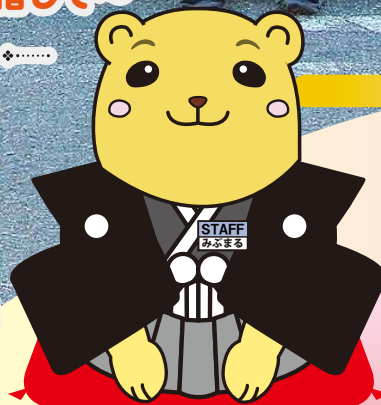
京都市立病院の救急医療について

～地域を守る“あたたかな”救急医療提供を目指して～

- ◆ 救急科
- ◆ 看護部
- ◆ 臨床検査技術科
- ◆ 小児科
- ◆ 集中治療科
- ◆ 放射線技術科
- ◆ 産婦人科
- ◆ 臨床工学科
- ◆ 薬剤部

News

全ての手術室で全身麻酔に対応できるようになりました！



地方独立行政法人 京都市立病院機構
京都市立病院



LINE
公式アカウント



京都市立病院の 救急医療について

～地域を守る“あたたかな”救急医療提供を目指して～

京都市立病院では、24時間365日救急患者さんの受入れを行っています。
より多くの傷病者に、「京都市立病院で受診して良かった」と思ってもらえる
ように対応することを心がけています。



救急科部長 國嶋 憲

当院の救急医療について

当院は、京都府二次救急医療機関、地域医療支援病院、災害拠点病院の救急部門として、年間約5,000台以上の救急車搬送の受入れをはじめ、救急外来として約16,000人の救急初期診療を行っています。また、公立病院として小児救急や周産期医療などの受入れも行っており、地域の救急医療需要に応える病院として、幅広い疾患に対応しています。

患者さんの状態の迅速な判断と適切な治療を行うために診療科や多職種との連携を大切にしています。冬場は、寒さによる血管収縮や急激な温度変化により血圧が上下し、脳卒中や心筋梗塞といった命に関わる病気が増加しやすくなるため注意しましょう。



当院の救急部門の取組

地域包括ケアシステム

患者さんが住み慣れた地域で自分らしく生活続けることができるよう、当院の患者支援センター、外部機関と連携し、患者さんの意向も踏まえて対応しています。

医療の高度化

高度な医療を救急室から集中治療室までシームレスに提供することを目的として、様々な職種が救急室に常駐し、協働でタスクを分担し、初期診療を行っています。

医療の多様化

傷病への診療という視点にとどまらず、患者さんの意向を大切に
する視点も合わせて、診療方針を決定しています。

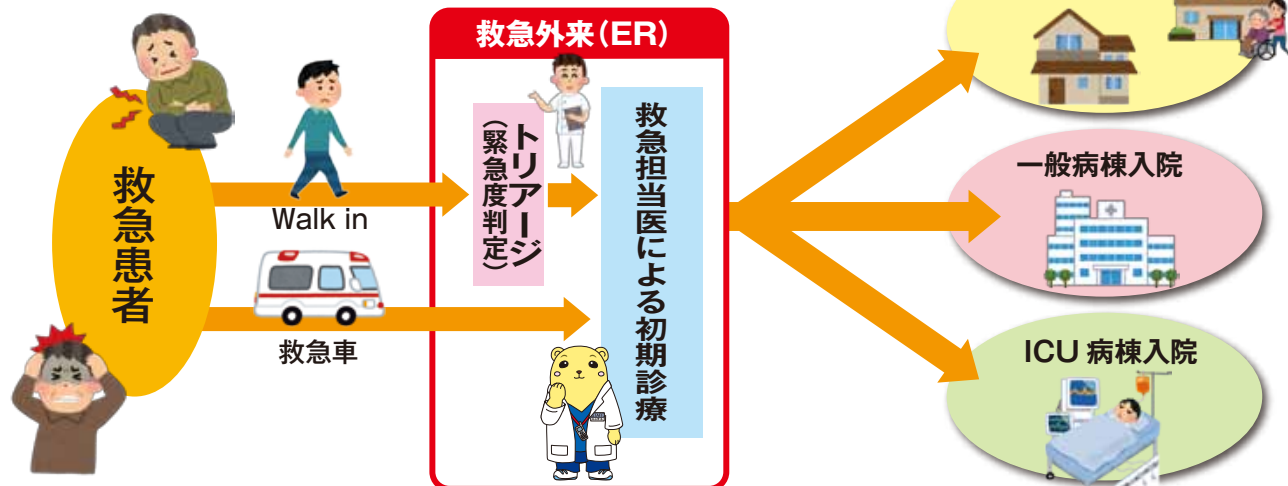
臨床教育

院内外から多職種の実習・研修を受入れ、未来の急性期医療を担う人材育成に努めています。



救急外来の流れ

当院の救急外来の流れを紹介します。



急な病気やけがで迷ったときは・・・

救急安心センターきょうと **#7119** を利用しましょう。

※通話料は相談者のご負担となります。

急な病気やけがをしたときに、救急車を呼ぶべきか、病院に行くべきかなど迷ったことはありませんか？「救急安心センターきょうと(#7119)」とは、24時間365日、電話で看護師からアドバイスを受けることができる救急相談窓口です。相談の結果、緊急性が高いと判断された場合には救急車の要請を助言し、緊急性が低いと判断された場合は、受診可能な医療機関の案内などを行います。

「呼吸をしていない」「脈がない」「意識がない」「大量に出血している」などの場合や、ご自身が緊急と思った時は、ためらわず119番で救急車を呼んでください。

なお、15歳未満の小児については、小児救急電話相談(#8000)もご利用ください。

～小児救急・周産期医療のご紹介～



当院では、子どものけがや病気についても救急対応を行っています。

大人と違い、子どもは症状が軽い場合が多く、その中に重い病気やけがの子どもがいないかを見つけることが大切です。夜間や休日は小児科医師が一人で診療を行うことがほとんどです。そのため、最も緊急性の高い患者さんを優先して診療する「外来トリアージ」を行っています。その結果、受付をした順番通りに診察が出来ないことがありますが、受診される全ての子どもを診察します。ご理解ご協力をお願いします。

また、地域周産期母子医療センターとして周産期医療にも力を入れています。リスクの少ない妊婦さんから合併症のある妊婦さんまで周産期における母体や新生児の緊急事態にも、小児科や他診療科と一体となって、24時間診療を行います。



小児科医長 佐々木 真之



産婦人科部長 小芝 明美



救急医療を支える専門職のご紹介

看護部

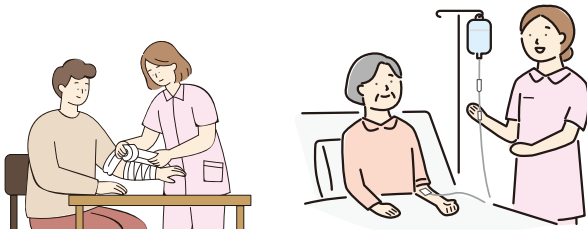
① すぐに状態を見きわめる「トリアージ」

患者さんの状態をすばやく確認し、緊急度の高い方から治療につなげます。呼吸・意識・血圧などをチェックして医師に伝えます。



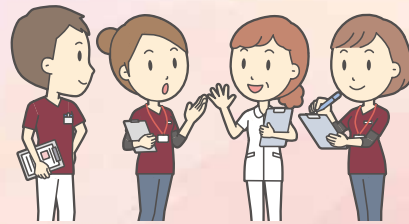
② 迅速な処置と専門的なケア

状況に合わせて、点滴・採血・酸素投与などの処置を行い、けがの手当ても行います。状態を常に見守りながら安全を守ります。



③ 気持ちに寄りそったサポート

突然の体調不良で不安な患者さんやご家族に、優しく声をかけ、安心できるようサポートします。



看護師 木下 貴映子

④ 医療チームのかけ橋に

医師・救命士・技師など、多くの職種と連携し、スムーズに治療が進むよう全体を支えます。



⑤ 災害や大きな事故にも備えています

もしものときに備え、日々訓練を行い、地域の安心を守っています。



人工呼吸器装着訓練

「一分一秒でも早く、命を守りたい」

救急看護師は、その強い想いで皆さまを支えています。安心してご来院ください。

集中治療科

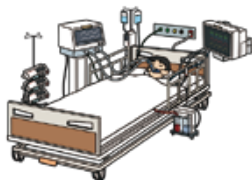
ICU(集中治療室)は、急な病気やけがで体の働きが弱ってしまった方を、集中的に支える場所です。救急搬送や急変などで状態が不安定な患者さんに対し、医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・臨床工学技士など多職種が連携しながら、必要な治療や観察をきめ細かく行っています。

呼吸や循環のサポートはもちろん、早期からのリハビリや意思決定支援など、その方が安心して治療を受けられるよう幅広いケアを大切にしています。

当院 ICU は、地域みなさまが「もしものとき」に頼れる存在でありたいと考え、日々チーム一丸となって支援に取り組んでいます。



集中治療科部長
下新原 直子



ICU(集中治療室)



臨床工学科

当院の臨床工学技士は医療機器の専門職として、24 時間体制で救急医療の一翼を担っています。

特に人工呼吸器などの生命維持管理装置やペースメーカー等の操作、各種医療機器の操作・管理などは今日の救急医療に欠かせない業務となっています。

近年は、自宅で医療機器を使用し療養されている方も増えており、当院では在宅医療機器についても対応していますので安心して受診してください。

また、救急医療現場で直面している課題として、慢性的な人手不足と医療従事者一人ひとりの過重労働が挙げられます。当院はこれらに対応するため、自動心肺蘇生器を導入しテクノロジーの力で負担軽減を図っています。

私たちは、これからも医療機器を通じて安全で質の高い救急医療に貢献していきます。



臨床工学科主席
臨床工学技師
伊藤 禎章



自動心肺蘇生器



ペースメーカーの操作



人工呼吸器

臨床検査技術科

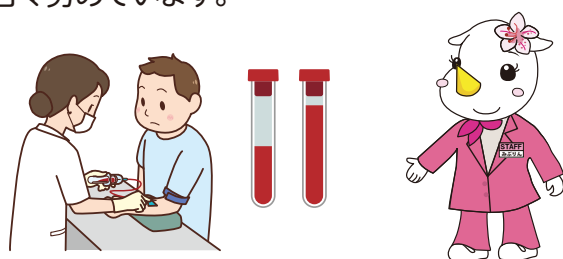
臨床検査技師は、医師の指示のもと、病気の診断や治療に必要な検査を行います。検査には、尿や血液などの検査を行う検体検査と、直接身体を検査する、生理機能検査があります。

救急室では、症状に合わせてその場で検査を行い、原因が何か、どのくらい緊急性が高い状態かを、医師や看護師をはじめ、救急室のスタッフとともに評価し、迅速な診断、治療のサポートをします。

例えば胸痛で病院にいられた場合、心電図検査や心臓超音波検査、血液検査等を行い、心筋梗塞などの緊急性の高い病気が隠れていないかを検査します。

また、今の時期でしたら、インフルエンザ検査なども行っています。

臨床検査技師一同、救急室で安心、安全に検査を受けていただけるよう日々努めています。



臨床検査技術科
園山 和代



心臓超音波検査

放射線技術科

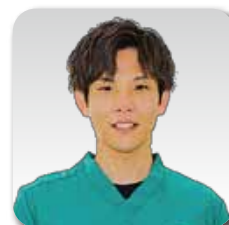
救急の現場では、病気やけがの状態をすぐに判断することがとても大切です。

放射線技師は、必要に応じてレントゲンやCT、MRIの検査を行い、画像を提供しています。

検査で得られた画像は治療の方針を決める大切な情報であるため、技師は正確さとスピードの両方を意識して撮影しています。

当院では夜間や休日でも技師が常に勤務し、24時間体制で検査に対応できる仕組みを整えています。これは急な病気やけがの方に対しても、時間帯に関係なく安心して検査を受けていただくためです。

また、不安な気持ちで検査を受ける患者さんに寄り添い、できるだけ安心していただけるような声かけや配慮を心がけて検査を行っています。



放射線技術科
片瀬 智也



救急外来専用 64 列マルチスライス CT



救急外来専用一般撮影(透視)装置



薬剤部

多種多様な患者さんを受け入れる救急室では、使用される薬の種類も多く、薬剤師の積極的な関わりが必要とされます。

当院では、薬剤師が平日午後の3時間程度、救急室のスタッフとして常駐し、救急車または徒歩で来られたなど、状態を問わず全ての患者さんが普段飲んでいる薬の内容を確認しています。

また、薬の副作用が出ていないか、治療が始まった注射薬の点滴する速度は適切かなどを確認する傍ら、医師や看護師など他スタッフへの治療に必要な医薬品情報の提供、薬物療法の提案、患者さんへ処方された薬の説明など、多職種と連携しながら最善の治療を目指して活動を行っています。



薬剤部 薬剤長
本多 あずさ



News

全ての手術室で全身麻酔に対応できるようになりました！

当院の手術センターには10室の手術室があります。そのうち、手術室ルーム7は局所麻酔専用の手術室のため、限られた術式での手術しかできませんでした。



全身麻酔対応手術室

そこで、近年の手術件数増加に伴い全身麻酔が必要な緊急手術にも柔軟に対応できるよう改修工事を行いました。

令和7年12月15日（月）から手術室ルーム7は、全身麻酔にも対応した手術室として稼働をはじめ、これにより10室、全てで全身麻酔が可能となりました。



全身麻酔
対応



周術期統括部長
角山 正博

京都市立病院創立60年記念 ～中京消防署と協力し、こどもの日イベントを開催！～

令和7年11月29日(土)創立60年記念コラボとして、当院と中京消防署が協力し、消火体験や消防服の着用体験など子ども向けイベントを開催！

当日は、150名を超えるお子さんやご家族の皆さんに参加していただき、会場は大いに賑わいました。



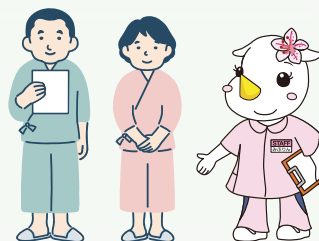
健診センターからのお知らせ

4～5月の間、全額自己負担で京都市立病院の人間ドックを受診される方を対象に、料金が以下のとおりに変更となります。この機会にぜひ受診をご検討ください。

○4～5月 / **31,150 円(税込)** (喀痰検査なし、お食事券付)

【参考】通常料金：43,030円(税込)

※ペア割もあります。詳細はこちら ▶ <https://www.kch-org.jp/patient/dock>



令和7年度 京都市立病院 第6回ミニ市民公開講座開催のご案内

ミニ市民公開講座を下記のスケジュールで開催しています。講演終了後に質疑応答の時間もありますので、日ごろの体調について気になっていることなどがある方は、ぜひお越しください。

第6回

《テーマ》

「動脈硬化は万病のもと」

令和8年2月14日(土)



第6回講演医師
松尾 あきこ

▶会場：京都経済センター（地下鉄『四条駅』すぐ）
京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町 78 番地

▶時間：10:30～11:30

▶申込不要（先着70名）

▶参加無料

※過去の講演は公式 YouTube チャンネルにて順次公開予定です。

<https://www.youtube.com/@KCHorg1>



- 第1回 令和7年 4月12日(土) 「アイフレイル～眼の健康寿命を延ばそう～ Part2. 緑内障について知ろう！」
- 第2回 令和7年 6月14日(土) 「他人事ではない不整脈」
- 第3回 令和7年 8月 9日(土) 「肝臓・胆道(胆のう)・膵臓の手術が必要な時のために…最新手術でもうこわくない？」
- 第4回 令和7年10月11日(土) 「本当はこわい高血圧」
- 第5回 令和7年12月13日(土) 「婦人科がんと子宮頸がんワクチンの話」
- 第6回 令和8年 2月14日(土) 「動脈硬化は万病のもと」



京都市立病院 無料送迎バス

ぜひお気軽にご利用ください

時間	京都市立病院 ～出発～			阪急西院駅前 (2階100円ショップ/1階スーパの前付近)			京都市立病院 ～到着～		
8時			40			45			55
9時	00	20	40	05	25	45	15	35	55
10時	00	20	40	05	25	45	15	35	55
11時	00	20	40	05	25	45	15	35	55
12時	00	20	40	05	25	45	15	35	55
13時	00	20	40	05	25	45	15	35	55
14時	00	20	40	05	25	45	15	35	55
15時	00	20	40	05	25	45	15	35	55
16時	00	20	40	05	25	45	15	35	55

(土日祝日、年末年始等の休診日は運休)



ご意見募集中!

最後までお読みいただきありがとうございました。当院では、「やすらぎ」に関するご意見を当院ホームページで募集中。右のコードを読み取りのうえ、ご意見・ご感想等を記入し送信してください。いただいたご意見は、今後の紙面の充実の参考とさせていただきます。



やすらぎ 2026・1月号

令和8年1月14日発行

発行：京都市立病院機構 京都市立病院

〒604-8845

京都市中京区壬生東高田町1番地の2

TEL 075-311-5311

FAX 075-321-6025

